

# 紙面でつながる なみエール



なみエール第七号 令和4年1月1日発行 編集/一般社団法人まちづくりなみえ 町内コミュニティ再生支援事業

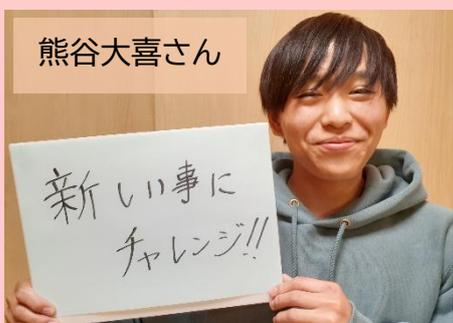
**今年の抱負**  
書いてください  
**2022**  
町民の皆さんの声



4月から中学生になります。部活ではバドミントンを頑張りたいと思います。



「Fimstudio」という名前で設計・デザインを行っています。現在、スポーツセンター西側に事務所建設中。



一日一日を、何かのきっかけになるような時間の使い方をしたい。



花植え活動で苧宿のみんながたくさん集まりました。みんなと会えて嬉しかった！



ウクレレを始めて1年半、ミニコンサートで初演奏。音楽に興味がある方はスピーカー製作工房 S&H にお越しください。



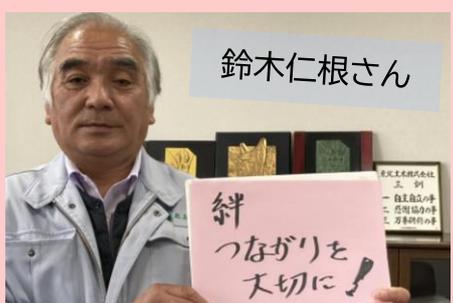
まち・なみ・まるしえて、子どもからお年寄りまで皆で集まれる催しを企画したいと思います！



90 歳になりました。これからも農作業がんばるぞ！



趣味はテレビをみること。今年は何んなテレビドラマがあるか楽しみです。



震災やコロナ禍で、親戚や友人、仕事仲間とのつながりが疎遠になってきているので、つながりを回復して昔のように戻りたい。



20代に突入！スポーツを通してたくさんの方と出会えた10代でした。これからもたくさんの方と交流を深めていきたいです。



コシヒカリの新米うまかった。地道な積み重ねの大切さを感じています。今年も美味しいお米づくり頑張ります！



まちづくりなみえ町内コミュニティ再生支援事業では、町の様子などを取材しブログで発信しています。今回お届けするのは浪江町の冬の伝統行事である「裸参り」。ブログに掲載した内容を一部抜粋してお届けします。

1年間の無火災を祈る「裸参り」は、町の無形民俗文化財に指定されており、毎年旧暦の1月8日に行われ、初春の恒例行事となっています。

安政6年(1859年)に町内の繁華街が大火に見舞われたため、火災が広がらないように街並みを変えたことなどが由来と伝えられています。

裸参りは、白装束姿の若衆が、目抜き通りを掛け抜けるときに、沿道に集まった大勢の町民がバケツに用意した冷水をひしゃくで若衆に浴びせ、1年の無火災を願うもので、伝統の風物詩となっています。現在は、浪江町消防団第一分団第一部により継承されています。(浪江町ホームページより引用) ※令和3年12月現在、休止中です。



▲権現堂字本城を駆け抜ける人達(原中様提供)

裸参りに参加したことがあるという浪江町内在住の60代の方にお話を伺うと、「30代の頃に2回ほど参加したことがあり、当時は浪江消防団第三部に所属していた」とのことでした。

裸参りに参加した時の様子については、このようにおっしゃっていました。

「ひとしきり水をかけられているときはまだ良いが、雷神社が近づいてくると途端に水をかけてもらえなくなり、冷え切った身体に風があたって辛かった」

「それでも、不思議と嫌だったという気持ちはない。辛さを乗り越えて頑張ったからこそ、達成感があった。終わった後に入るお風呂は最高だったな～。

お風呂の湯がすぐぬるくなってしまうので、何度か沸かして

てもらって入った。良い思い出になっているよ」と、当時の様子を振り返り、笑顔で話されていました。



また、裸参りのチラシやテレホンカードを大事にとっている町民の方もいらっしゃいました。

東日本大震災から間もなく丸11年を迎えようとしています。震災後も、火防祈祷だけは続けられており、毎年旧暦の1月8日には浪江町消防団員が浪江神社に参集して祈りを捧げています。

引き続き、裸参りについてブログで発信していきます。ブログを通して、かつてにぎわいを見せたあの日を少しでも思い出していただければ幸いです。

◀平成23年2月10日開催 裸参りのチラシ

(令和3年12月10日掲載)



▲裸参りの写真を使ったテレホンカード

新型コロナウイルス感染症の影響により、気軽に会ったり集まったりすることが難しい状況が続いています。一般社団法人まちづくりなみえ 町内コミュニティ再生支援事業では、町民の皆さん同士や地域が紙面を通してつながりを維持しながら、浪江町の情報を楽しんでもらえるようにと「なみえール」を発行してきました。令和3年度は本号が最終号となります。

引き続き、まちづくりなみえのホームページ内ブログ「なみえの今」では地域の出来事や様子などを発信しています。右のQRコードからもアクセスできます。どうぞご覧ください。(編集 まちづくりなみえ 町内コミュニティ再生支援事業 今野聡、引地裕子、岸本あすか)

